

## ◆発信する場所、学び合う場所を作るために必要なこと

この記事は、「協議会メールマガジン」1月号(1月31日配信)“CHALLENGE 2019 -実践へのヒント-”に掲載したものです。

# 一般財団法人ACCN スタートアップミーティングへの想い Vo.3

### ◆発信する場所、学び合う場所を作るために必要なこと

今回チャレンジは、前回、前々回に続いて、キャリアコンサルタントの新たな職能団体である一般財団法人ACCN(オールキャリアコンサルタントネットワーク)のスタートを前に、その準備に従事しているキャリアコンサルティング協議会ACCN準備室の山本達夫にインタビューを行いました。

今回はACCNが目指す具体的な姿について聞きました。

### ◆フィールドワークを通した学び合い

-ACCNはキャリアコンサルタントの職能団体ということになりますが、会員になる方々には「何をしてくれるのだろうか」という期待があると思います。どのような組織になるのでしょうか。

(ACCN準備室)

スタートアップミーティングでも、ACCNについて、キャリアコンサルティングの世界での新しい動きとして、皆さんから大きな期待を感じました。

もちろん「どんなサービスがあるのか」という期待もあると思いますし、それにお応えするための団体保険への加入や資料購入の際の割引といったサポートを実施します。

しかし、ACCNの主役は会員の皆さんなので、活動の中心は会員の皆さんによる自主的、自発的な研究活動、実践だと考えています。会員の方々の具体的な行動がない限り、ACCNは社会的な使命を果たすことはできないでしょう。ACCNは、会員による主体的な活動が活発に行われて、学びや蓄積が実現するきっかけとなるような仕組みであることを、大きな目標として考えています。

-会員の方々に行動してもらうためにどのような仕組みを作るのでしょうか。

(ACCN準備室)

全国で、多くのキャリアコンサルタントの方々が、社会的な課題の解決に向け日々活動を続けていらっしゃると思います。同じテーマや問題意識を持った人々を結びつけて、より広い視点で事例や方法論を探ることができれば、大きな学び合いを実現できるのではないかと。異なった視点を持った会員同士が交流できれば、フィールドワークをより深めることができるのではないかと、という発想からスタートしました。



-フィールドワークを通じた学び合いですか。

(ACCN準備室)

あるべき姿を考えた時に、ACCNは一つの劇場のようなものだと思います。劇場の観客の一人として参加してもらうだけでなく、課題に取り組んでいる会員の方々自身に主体的に舞台に上がってもらって、実践と研究を他の会員に公開したらどうだろうか。その過程で客席にいた人々も、メンバーとして参加したり、新しい実践を立ち上げたりできるような場にできればと考えました。

-フィールドワークを広げること、深めていくことは、とても重要なことだと思います。しかし一方で、フィールドワークは、仮説を立てて検証を重ねることや、成果をモデル化して提言するといった、従来のキャリアコンサルティングには比較的馴染みの薄いスキルが求められる世界でもあると思います。

(ACCN準備室)

確かに従来までは、日常の活動のなかで課題解決のノウハウを深める場面は少なかったのかもしれませんが。しかし急速な社会の変化のなかで、働く現場や教育の現場、福祉・医療の現場で、多くのキャリアコンサルタントが新しい困難な課題に立ち向かっている現実があると思います。キャリアという視点で対人支援を行うスキルを持った者としてキャリアコンサルタントがフィールドワークによって社会に発信していくことの重要性はますます高まっていると感じます。



-ACCNは社会的な実践のショーケースを目指すということでしょうか

(ACCN準備室)

せっかく優れた事例研究や実践があっても、情報の結節点や学び合いの場が少ないことで、蓄積や広がり薄い状態だと言えます。また、フィールドワークを実現していくための学びや気づきの機会も少ないことが現状ではないでしょうか。キャリアコンサルタントが社会の要請に応えていくためには、多様な問題意識と個性を持った多くの会員が集まる劇場と、自らが向合っている課題や研究を公開して、共に学ぶことができる舞台とが必要だと考えました。

◆皆が実践できる「テーブル」という考え方

-会員の方々に自発的に舞台に上がってもらうことは、とても重要なことだと思いますし、実現すれば職能団体として社会の要請に応えていく「器」ができるのではないかと思います。どのような運営になるのでしょうか。

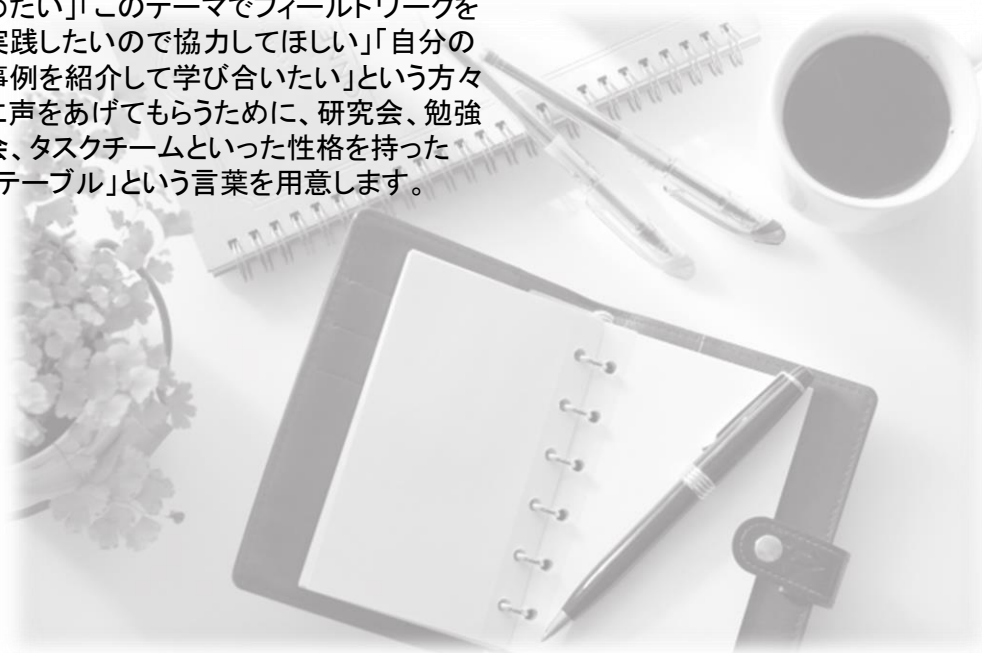
(ACCN準備室)

新しいことを始めるわけですから、こうしたら必ずうまくいく、というようなインスタナ方法論は存在しないと思います。常に知恵を集めながら運営方法を作り続けていくことが必要だと考えています。まずは、「この目標を達成するために知恵と行動を集めたい」「このテーマでフィールドワークを実践したいので協力してほしい」「自分の事例を紹介して学び合いたい」という方々に声をあげてもらうために、研究会、勉強会、タスクチームといった性格を持った「テーブル」という言葉を用意します。

-テーブルとは「皆が集まって議論や行動をする」という意味ですか。

(ACCN準備室)

そうです。自発的な行動をしてもらうには、絶えざる問いかけが必要だと思います。まずは特定のテーマと目標を持った「テーブル」という考え方を作って、情報を発信したり、実践したりする会員の主体的な動きを作りたいと考えています。「求職の場にしない」「営業行為を行わない」といった基本的なルール、いわ「テーブルマナー」を決めて、あとは自由な発想で会員全体ひいては社会全体に問いかけてもらう場を作りたいと考えています。



-会員が自発的に動くということですね。組織的なサポートはあるのでしょうか。

(ACCN準備室)

もちろん、継続的に活動を行ったり、成果を共有したりするためには、ACCNとして「テーブル」へのサポートが必要になります。主宰者＝言い出しっぺ負担を軽減して声をあげやすい環境を整備するための手法、目標設定とプランやシラバスを重視したコストのかからない運用手法、調査やレポートなどの、次のステップや成果に結びつく活動手法といった、各種の手法に関するノウハウを蓄積していくことが必要になると考えています。また、広報とし「テーブル」の活動を発信していく機能も重要だと考えています。

-「テーブル」は会員の活動の中心なのでしょうか

(ACCN準備室)

現在、具体的な運用を構築中ですので今のところの構想をお話すると、「テーブル」には4種類の主体を考えています。中心は「会員テーブル」で、ACCNの会員の方々が主体的に、個人やチームで立ち上げていただくものです。原則として1年間の活動で、必要な時は翌年以降更新する形になります。初めに明確な目標を設けて、年間でのプランを公開し、定期的に活動のレポートを公開できるようにします。その活動をきっかけに新たな活動や連携が始まることも考えられますし、活動のなかで、「いかに周囲に動いてもらうか」というプロジェクトマネジメントスキルも重要なテーマとなると思います。

また、ACCNは全国9つの支部を設ける予定ですので、その支部によるリージョナルな活動として「支部テーブル」が立ち上がります。こちらは会員の交流会的な要素も加わるのではないかと思います。

さらに、ACCNには「倫理」「技術開発」「調査研究」「広報」などの委員会が発足する予定です。そこでこれらの委員会の活動も「委員会テーブル」として公開していきます。

さらに、会員や他の団体とのコラボレーションによって、ACCNからソーシャルビジネスや事業が生まれることを目標にした「事務局テーブル」を設けます。これはACCNが、社会的な課題を解決するためのインキュベーターやアクセラレーターの役割を担うための「テーブル」となります。

それぞれの「テーブル」は主体が異なりますが、互いに学び合い、問いかけ合って成長していく環境を形成することが目標だと思います。

-理事がいて、支部があって、事務局があって、委員会があって、と旧来のピラミッド型のオペレーション組織のようにも見えますが、実際には会員の主体的な行動によって成り立つフラットな組織である、ということですね。

(ACCN準備室)

考え方としては、主体的な活動である「テーブル」のフラットな集合体こそがACCNである、とも言えるでしょう。今、社会には新しい課題があふれています。現場での実践に根ざした経験や、貴重な体験を発信して学び合うことがとても重要になっています。ただ、それは簡単なことではないと思います。主体的な行動の集合体を作るというチャレンジを続けていきたいと考えています。

ぜひ皆さんと共に学び合いたいと思います

